

SUCCES 仮設土留め工の設計(JR) メンテナンス履歴

Date	Version	修正項目
2018/05/31	10.00	<<不具合修正項目>> <ul style="list-style-type: none"> <li>・物件選択画面で、フォルダーツリー表示が正常に表示されない場合があったので修正しました。</li> </ul>
2017/12/04	2.23	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ねっとさーば Cloud2 版をリリースしました。</li> </ul>
2015/06/09	2.23	<<不具合修正項目>> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロテクトを認証しない場合がありますので修正しました。</li> </ul>
2015/05/13	2.22	<<改善項目>> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロテクトライブラリを一部見直しました。</li> <li>・ハット形鋼矢板(SP-10H,25H,45H,50H)を登録材料に追加しました。</li> </ul>
2014/01/31	2.21	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ねっとさーば Cloud 版をリリースしました。</li> </ul>
2013/08/20	2.21	<<機能追加項目>> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Zip 形式のファイル圧縮・解凍に対応しました。</li> </ul> <<改善項目>> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Windows 8 に対応しました。</li> <li>・[ヘルプマニュアル]を Adobe Reader XI に対応しました。</li> </ul>
2011/04/01	2.20	<<改善項目>> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Windows Vista および Windows 7 の 64bit 版に対応しました。</li> </ul>
2008/03/31	2.15	<<不具合修正項目>> <ul style="list-style-type: none"> <li>・突出長≠0.0 で粘着力の勾配 <math>C_a \neq 0.0</math> とすると、計算書内の掘削側土圧を示す表内の粘着力 C の値に誤りがありましたので修正しました。尚、掘削側土圧は正しく計算されており、根入れ長・断面力に影響はありません。</li> </ul> <<改善項目>> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Windows Vista(32bit 版)に対応しました。</li> </ul>
2006/02/08	2.14	<<不具合修正項目>> <ul style="list-style-type: none"> <li>・切梁・腹起しの座屈を検討しない場合でも、細長比とフランジ固定点間距離に応じて許容応力度を低減するように修正しました。</li> </ul> <<改善項目>> <ul style="list-style-type: none"> <li>・粘性土層を含む互層地盤では、水圧タイプを「浸透流を考慮する」とした計算に対応しておりませんでした。砂質土層の水圧係数を自動的に設定した計算を可能にしました。また、データを新規に作成する際の初期値も「浸透流を考慮する」に変更しました。</li> <li>・SI 単位における切梁反力の指定入力を小数点以下 1 桁→2 桁に変更しました。</li> </ul>

SUCCES 仮設土留め工の設計(JR) メンテナンス履歴

2004/05/26	2.13	<p>&lt;&lt;不具合修正項目&gt;&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>指針の正誤表にあわせて、平成 13 年基準のボイリング検討における係数 <math>b</math> の算出式を変更しました。 誤) <math>b = 0.28 - 0.0028 \cdot hw</math> 正) <math>b = 0.27 + 0.0029 \cdot hw</math></li> <li>昭和 62 年基準における自立式と切梁式が混在する場合の自立時における設計根入れ長の算定方法を変更しました。 修正前) 最終掘削底面から自立時のつり合い深さまでの長さに安全率を乗じて設計根入れ長とします。 修正後) 自立時の掘削底面からつり合い深さまでの長さに安全率を乗じて設計根入れ長とします。 切梁設置時の算定方法はこれまでと変更ありません。(最終掘削底面から各施工時のつり合い深さまでの最も大きい値に安全率(1.2)を乗じて設計根入れ長とします。)</li> </ul>
2003/06/10	2.12	<p>&lt;&lt;不具合修正項目&gt;&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成 13 年基準選択時に列車荷重による側圧を計算する場合、計算書内の設計断面図に列車荷重が正しく描かれませんでしたので修正しました。</li> <li>昭和 62 年基準選択時に計算書内の設計断面図で荷重記号を変更しました。 軌道荷重 : <math>Q1 \rightarrow q1</math> 列車荷重 : <math>Q2 \rightarrow q2</math> 列車近接荷重 : <math>Q3 \rightarrow q3</math></li> </ul>
2002/10/31	2.11	<p>&lt;&lt;機能追加項目&gt;&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>根入れ長を指定入力して、その時のつり合い安全率を計算する機能を追加しました。</li> <li>水圧タイプの入力画面において、その初期値を「粘性土以深は被圧地下水を考慮して水圧を自動計算する」に変更しました。</li> <li>土圧の変化点～つり合い深さまでに土層境界が存在する場合、水平力のつり合いにおいて安全率を下回る結果となる場合がありますので修正しました。</li> </ul> <p>&lt;&lt;不具合修正項目&gt;&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>土圧の変化点～つり合い深さまでに土層境界が存在する場合、土圧の変化点深さが誤ってプリントされる事がありましたので修正しました。つり合い深さの計算結果には影響しません。</li> <li>親杭式土留めの腹起し計算で、断面力の算出方法を三径間連続梁とした場合に、断面力を 0.01m ピッチで着目して最大断面力を算出するように変更しました。</li> <li>以下の条件において、自立時の最大曲げモーメントがゼロになるので修正しました。 (1) 自立時の計算をモーメント法により行う。 (2) 仮想支持点を指定入力する。</li> <li>計算された土留め板の必要板厚が最小板厚を下回る場合、使用板厚が板厚のまるめ分だけ大きく計算されるので修正しました。</li> </ul>

SUCCES 仮設土留め工の設計(JR) メンテナンス履歴

2002/02/06	2.04	<p>&lt;&lt;不具合修正項目&gt;&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成 13 年基準選択時に水圧タイプを「土層ごとに被圧地下水圧を入力する」、または、「粘性土以深は被圧地下水を考慮して水圧を自動計算する」とした場合、粘性土以深の砂質土層の背面側・掘削側土圧に誤りがありましたので修正しました。</li> <li>平成 13 年基準選択時に火打ちボルトの許容応力度に誤りがありましたので修正しました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>一般の場合 <ul style="list-style-type: none"> <li>ボルトの許容せん断応力度 : 130 → 135 (N/mm<sup>2</sup>)</li> <li>ボルトの許容支圧応力度 : 300 → 315 (N/mm<sup>2</sup>)</li> </ul> </li> <li>列車荷重を直接支持する場合等 <ul style="list-style-type: none"> <li>ボルトの許容せん断応力度 : 110 → 115 (N/mm<sup>2</sup>)</li> <li>ボルトの許容支圧応力度 : 240 → 245 (N/mm<sup>2</sup>)</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>
2001/11/21	2.03	<p>&lt;&lt;不具合修正項目&gt;&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[基本条件]入力画面における[自立式の計算方法]で「水平力とモーメントのつり合い」を選択した場合、つり合い深さの収束計算に失敗してメッセージが表示される場合がありますので、計算方法を見直しました。これまで正常収束していた計算結果には影響ありません。また、互層地盤で薄い層が含まれる場合は正常に収束できない場合があります。</li> <li>旧基準(昭和 62 年)で自立式と切梁式を同時計算する場合において、自立式のつり合い深さが切梁式よりも深くなる場合に、根入れ長の決定が正しく行われませんでしたので修正しました。</li> </ul>
2001/10/15	2.02 (1.02)	<p>&lt;&lt;不具合修正項目&gt;&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[基本条件]入力画面における[自立式の計算方法]で「水平力とモーメントのつり合い」を選択した場合、自立式の変位計算（モーメントのつり合い点を固定端とする片持ち梁の変位）に誤りがありましたので修正しました。</li> <li>統合プロテクト、K T Sねっとさーば Ver3.0 対応（Ver1.02 の差分ファイルダウンロードにて対応します）。</li> </ul>
2001/8/6	2.01	<p>&lt;&lt;機能追加項目&gt;&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>統合プロテクト、K T Sねっとさーば Ver3.0 対応。</li> </ul>
2001/7/6	2.00	<p>&lt;&lt;機能追加項目&gt;&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「鉄道構造物等設計標準・同解説 開削トンネル、平成 13 年 3 月、(財)鉄道総合技術研究所」に対応しました。新旧基準の選択が可能です。</li> <li>切梁式土留め全体の変位計算スイッチを設けました。</li> <li>粘性土の断面計算用側圧係数を自動計算する機能を追加しました。</li> </ul> <p>&lt;&lt;不具合修正項目&gt;&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>断面力の集計において、最上段切梁より上部に生じる負の曲げモーメントが考慮されず、正の曲げモーメントの最大値のみで応力度照査を行っていましたが修正しました。</li> </ul>